

2023年1月8日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒41番（旧28番）（KM 姉）

『讃えの歌こそ』

聖書⇒ルカによる福音書 15:11~24 節（MM 姉）

『また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と。』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。』

礼拝讃美歌⇒6番（旧8番）

『遙かに迷いし』

聖書⇒詩編 100 編（SK 兄）

『全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。
喜び祝い、主に仕え／喜び歌って御前に進み出よ。
知れ、主こそ神であると。主はわたしたちを造られた。
わたしたちは主のもの、その民／主に養われる羊の群れ。
感謝の歌をうたって主の門に進み／賛美の歌をうたって主の庭に入れ。
感謝をささげ、御名をたたえよ。』

主は恵み深く、慈しみはとこしえに／主の真実は代々に及ぶ。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 1:17~18 節

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒236 番 (旧 197 番) (KH 姉)

『移り行く世にも』

聖書⇒創世記 22:1a、2b、7b~8、10~12 節 (ES 姉)

『神が、「アブラハムよ」と呼びかけ、彼が、「はい」と答えると、…「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」

イサクは言った。「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいるのですか。」アブラハムは答えた。「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。」

アブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、御使いは言った。「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 3:16~17 節

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。』

(祈)

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節 (EK 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「こ

の杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、
主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒122 番 (旧 205 番)
『十字架の上に』

《建徳》

聖書⇒マタイによる福音書 28:16~20 節 (SK 兄)

『さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』

聖書⇒マタイによる福音書 1:23 節

『「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。』

参照聖書⇒イザヤ書 7:14 節

『それゆえ、わたしの主が御自ら／あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み／その名をインマヌエルと呼ぶ。』

聖書⇒創世記 28:15 節

『見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。』

聖書⇒マタイによる福音書 7:7 節

『「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。』

聖書⇒箴言 3:5~6 節

『心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず常に主を覚えてあなたの道を歩け。』

そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてください。』

聖書⇒箴言 4:20~22 節

『わが子よ、わたしの言葉に耳を傾けよ。わたしの言うことに耳を向けよ。

見失うことなく、心に納めて守れ。

それらに到達する者にとって、それは命となり／全身を健康にする。』

聖書⇒コロサイの信徒への手紙 1:19~20 節

『神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。』

礼拝讃美歌⇒4 番（旧 7 番）（YA 姉）

『アバ父と神を』

《建徳要旨》